

秋田県仙北市 近未来技術実証特区を活用した事業創造計画

SEMBOKU FLIGHT PLAN



SEMBOKU FLIGHT PLAN 近未来技術実証特区を活用した事業創造計画

本計画は、国家戦略特区（地方創生特区・近未来技術実証特区）の指定を受けた仙北市が設置した、「新たな産業づくり支援協議会」で議論された内容を取りまとめたものです。

本計画はドローンやIoT、これに関連した近未来技術への関心を高め、本市における新たな産業づくりや、市内企業や市民の自発的な近未来産業への参入を促進することを目的としています。

問い合わせ先

秋田県仙北市役所 総務部 地方創生・総合戦略室
〒014-1298 仙北市田沢湖生保内字宮ノ後30番地
TEL：0187-43-3315（直通） FAX：0187-43-1300
MAIL：sousei@city.semboku.akita.jp

VISION

近未来技術実証特区を活用した 仙北市の未来像

大自然の中を舞い飛ぶイヌワシ。250年以上前から地域の発展と安寧を願い、夜空を舞台に繰り広げられてきた伝統行事「紙風船上げ」。この地に生きる私たちはいつの時代も空を見上げ、未来を信じ、前に進んできました。

しかし現在、日本が直面する時代の大きなうねりは、穏やかな営みをつづけてきた私たちの暮らしに様々な変化をもたらそうとしています。

時代の変化を乗り越え、明日につづく道を示すため、私たち仙北市は「地方創生特区」、「近未来技術事業実証特区」という名の翼を得て、羽ばたきを始めました。

そして私たちは今、新たな未来に向かい、飛び立つためのスタート地点に立っています。



1. 仙北市は、人と事業が「集まり」「育つ」「場」となることで未来を創生する。
2. 仙北市は、地域の課題を解決し、持続的な発展をもたらす近未来技術を積極的に活用する。
3. 仙北市は、受け継いできた地域資源の価値を再認識し、近未来技術による活用を目指す。

PLAN

近未来技術実証特区を活用した事業計画

紙風船上げ会場をドローンで空撮。

1. 実証サポート&企業誘致

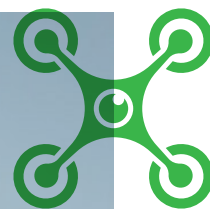
近未来技術実証特区として多くの企業の実証実験をサポートし、企業誘致を促進。

2. 近未来型ツーリズム

観光AR(拡張現実)やドローンなどを用いた近未来型アクティビティによる集客促進。

3. アグリ&フォレスト

ドローンによる生育情報分析や農薬・肥料散布、IoTなどによる森林情報の高度分析。



4. 暮らしアップグレード

災害対応、遠隔見守り、次世代型コミュニケーションなど日常的サービスの高度化。

5. 集いと交流

ドローンレースや見本市、映像コンテスト、アートイベントなどによる集客促進と活動周知。

6. 学びと人材育成

フライトスクール(ドローン操縦講座)、ハッカソンや各種講座、教育機関との連携など。

7. 起業と事業化支援(ローカルビジネスデザインセンター)

近未来技術実証特区仙北市の「顔となる拠点」の整備と運営。

8. 事業フィールド

フライトエリア(ドローン)の整備、近未来技術を用いた技術訓練フィールドの企画。

9. 近未来関連産業の集積

ドローン等の機体販売・整備。取得データ等の加工、分析を含めたサービスの開発。

10. 事業推進のための滞在支援

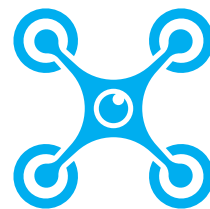
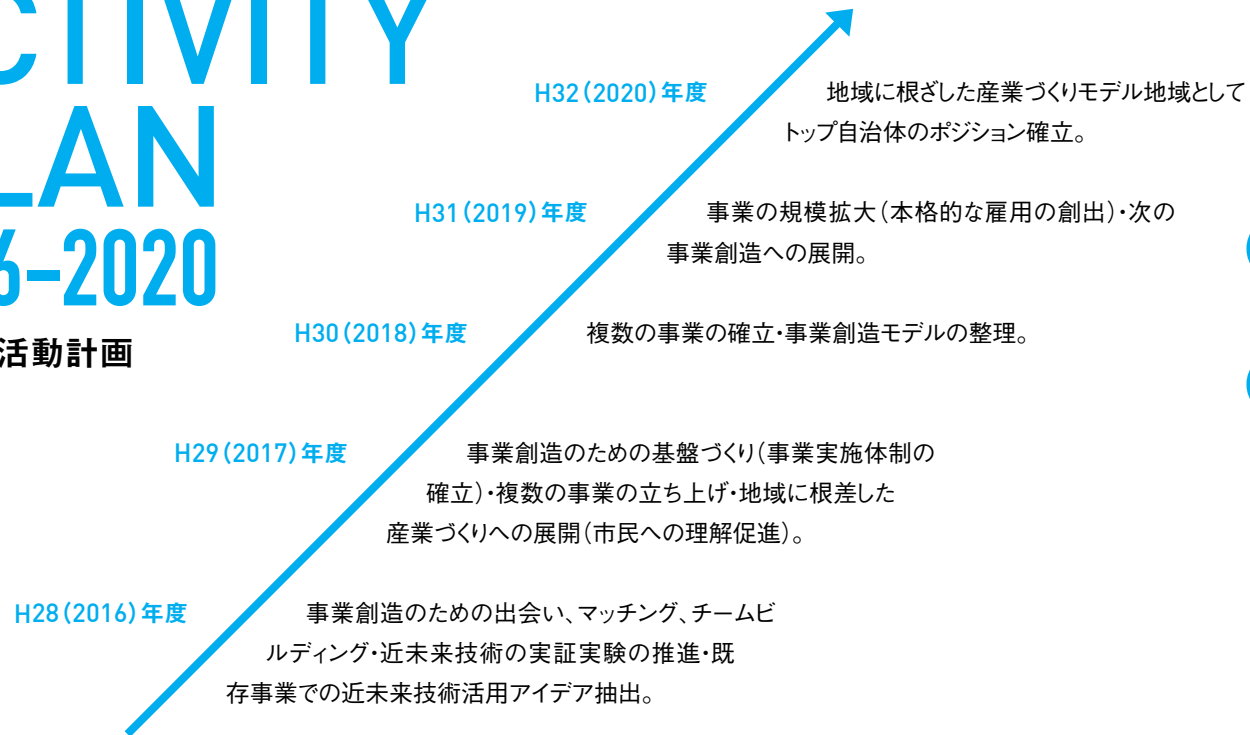
事業化を促進する人材、協力者等への安価な宿泊・研修施設の設置と運営。



上:ドローンレースに参加した子どもたち。下:自動走行バス運転実験の様子。

ANNUAL ACTIVITY PLAN 2016-2020

5カ年の活動計画



MEMBERS

近未来技術実証特区を活用した産業づくり支援協議会 計画策定委員(敬称略)

根田 好倫	秋田県仙北地域振興局 地域企画課長
佐々木 信也	秋田県産業技術センター 電子・光応用開発部 主任研究員
茂木 唯男	仙北東森林組合 総務指導課長
佐々木 英政	仙北市認定農業者協議会 会長
坂本 洋	一般社団法人 田沢湖・角館観光連盟 総代
吉田 雄吾	仙北市商工会青年部
小田野 直光	仙北市役所 地方創生・総合戦略統括監
田村 和明	秋田銀行 田沢湖支店長
太田 涉	北都銀行 田沢湖支店長
太田 一弘	秋田県ドローン安全協議会 会長
鳥潟 與明	東光鉄工株式会社 UAV事業部 シニアマネージャー
駒形 政樹	FPV Robotics 株式会社 代表取締役社長
田村 清一	田沢湖RCフライングクラブ 会長
芳賀 嵩	角館ラジコンクラブ 会長
櫻田 善英	一般社団法人 秋田県情報産業協会 理事
伊嶋 謙二	株式会社ノークリサーチ代表

